

令和7年度第1回習志野市市民参加型補助金審査委員会議事録

1.開催日時 令和7年4月19日(土)午前10時10分～11時30分

2.開催場所 市役所3階大会議室

3.出席者

【委員長】松井 秀明

【副委員長】田島 則行

【委員】齊藤 恵子 鍋嶋 洋子 高岡 明美 原田 真一郎 廣瀬 淳一

【事務局】協働経済部 部長 小倉 一美 次長 吉岡 治

協働政策課 課長 中野 充 係長 笠木 翼 主任主事 田村 大輔

【発表者】3団体3人

【傍聴者】なし

【関係課】なし

4.会議内容

第1 会議録の作成等

第2 会議録署名委員の指名

第3 報告

(1) 令和6年度習志野市市民参加型補助金実績報告について

5.会議資料

令和7年度第1回習志野市市民参加型補助金審査委員会に関する資料(別添)

会議次第

資料1 習志野市市民参加型補助金審査委員会スケジュール

資料2 令和6年度 市民参加型補助金申請事業一覧

参考 ・習志野市市民参加型補助金審査委員会設置要領

・習志野市市民参加型補助金審査委員会委員名簿

6.会議内容

第1 会議録の作成等

要点筆記とする。

第2 会議録署名委員の指名

田島副委員長、高岡委員とする。

第3 報告

(1) 令和6年度習志野市市民参加型補助金実績報告について

【中野協働政策課長】

資料1、資料2について説明。(質疑なし)

【NPO 法人おりがみ】

申請事業「習志野市地域わかもの会議“ちいわか”」について実績報告。

- 大学生が仲介者となり、中高生の「やりたい」ことと地域のニーズとをマッチさせる仕組みをつくり、地域コミュニティと若者をつなぐ機会を創出することを事業のコンセプトとした。
- 事前交流会、全体ワークショップを 2 回、チームワークショップを計 9 回、振り返りワークショップを 1 回、その他小規模の会議、練習等を多数実施。
- 第二中学校区・実籾高校チームは、実籾連合町会との協働により「実籾ふる里祭り」においてスタンプラリー企画『ちいき人さがし隊』を実施し、180人が参加。
- 第四中学校区・習志野高校チームは、東習志野連合町会との協働により地域の文化祭として『けやきフェスタ』を実施し、1,000 人が来場。
- サプライズを行うこと、写真のクオリティを重視している。
- 中高生、地域の双方から好評の声をいただいた。
- 前例がないため最初のアイデア出しに時間がかかり、中高生と地域との親睦が十分に深められなかった点は反省点であり、本年度構築した関係性をもとに次年度改善していきたい。

【田島副委員長】

今回の事業で活動した法人のメンバーは何名程度だったか伺う。

【NPO 法人おりがみ】

企画のコアメンバーが 4 名、ボランティアとして参加したのが20~30名程度。

【鍋嶋委員】

地域との間でコンセプトを作り上げるのに苦労した点について、次年度に向けて工夫は考えているか、伺う。

【NPO 法人おりがみ】

今回の事業で地域・学校との関係性は構築できたため、ワークショップに参加していただきやすくなっている。地域の方に少しずつ理解を深めていただくことが、地道だが最大の解決策と考えている。

【松井委員長】

中高生の募集については、学校が募集したのか、伺う。

【NPO 法人おりがみ】

その通り。結果的に多くは生徒会メンバーとなったが、募集の仕方については課題と考えている。法人の大学生については多くが習志野市外のため、市内 3 大学からメンバーを集めてくることも必要と考えている。

【田島副委員長】

3 大学とも、まちづくり分野に関わる先生は意外に多く、横の繋がりもあるので、そちらにアプローチすることも有効と思われる。

【earth FUNTRY!】

申請事業「レッツトライ!サステナブル!歌とダンスで考えるSDGs」について実績報告。

- 習志野市内外の小学校で「ごみの授業」を実施(計5校・約260名参加)。
雑がみ分別の体験や、意見表明を行う「テイクアスタンド」、歌とダンスの時間などを通して、子どもたちに楽しく環境意識を育てた。歌とダンスは効果的だった。
ファッションロスをテーマに、持参した服をどう活用するか考え、発表する活動も行った。
- イオンなどの大型店舗や地域住民と協力して定期的なごみ拾いを実施。今後は地域やPTAと連携し、継続的な実施を目指す。
- 生協や地域コミュニティと連携し、生ごみを土に還す「コンポスト作り」などのワークショップを開催。
- 谷津干潟での2日間のフィールドワークで、マイクロプラスチックの洗浄体験やごみ問題の解決策を考える活動を実施。
- 新習志野駅前夏祭りや「きらっと祭り」でごみステーション設置などの啓発活動。
- 地域の公民館で古着・学用品交換会を開催。
- 環境学習ミュージカル公開稽古の実施に加え、向山小学校全校への芸術鑑賞教室として上演。子どもたちの反応が良く、今後も公演活動が続けていきたいという意欲が高まった。
- 地域新聞やJ:COMなどの地域メディアに取り上げられ、多くの反響を得た。

【鍋嶋委員】

学校での活動に関して、教育委員会との連携はどのようにしているのか伺う。

【earth FUNTRY!】

教育委員会とも随時やりとりし、理解・協力を得ている。ただし、体制や担当が変わる中での連携には改善の余地もあるため、今後も丁寧に確認を重ねていく。

【齊藤委員】

古着交換会について、中学校は制服など無駄が出やすいので、広げていくと良いと思う。

【earth FUNTRY!】

実際に制服の持ち込みもあった。より知名度を上げることで、さらに活用されると思う。

【田島副委員長】

ダンスや音楽を伴わない活動も含まれており、形態にこだわらない幅広さが魅力を高めている。

SDGs・環境問題の啓発が目的で、ダンスや音楽がその入り口になっているのが良いと感じた。

【earth FUNTRY!】

ダンスを使わない活動も2割程度ある。メンバーのアイデアを一つずつ試しているところである。

【松井委員長】

実施小学校によって「ごみの授業」の参加者数にばらつきがあるが、対象は学年単位だったのか伺う。

【earth FUNTRY!】

「ごみの授業」は4年生を対象に行っているため学校の規模によりばらつきがある。4年生の社会科見学でごみの分別について学ぶので、それと関連付けて関心を深めてもらう狙いがある。

【習志野市 e-sports 協会】

申請事業「e-sports×シニア ～楽しみながら健康に～」について報告。

- 高齢者の認知症予防や外出機会の創出、交流の促進を目的に、市内で全 13 回の e スポーツ体験教室を開催し、延べ 405 名が参加した。(前年度より約 150 名増)
- 高齢者と子どもが一緒に楽しむ姿も見られ、世代を超えた交流が実現した。
- アンケートでは 99%が満足、98%が今後もまた取り組みたいと回答。
一部の町会では自らゲーム機を購入し、独自の取り組みが始まっている。
- ダスキンと連携し、簡単に遊べる UD ゲームの体験も実施した。
- 協会メンバーが「健康ゲーム指導士」という e スポーツに特化した資格を取得した。
千葉県eスポーツ連盟と連携しながらも、自立運営を目指している。
- Yahoo!ニュースへの掲載により、多くの関心が寄せられた。

【齊藤委員】

デイサービス等で、1 回の開催につきどの程度の費用で行っているのか伺う。

年配の方は負けず嫌いの方も多いので、こうした活動は盛り上がると思う。

【習志野市 e-sports 協会】

無料で行っている。e スポーツに馴染みのない人でも、3 種類のゲームを用意しているので、楽しんでもらえている。

【原田委員】

今後も地域に浸透するように、活動を続けていただきたい。

【習志野市 e-sports 協会】

地域に密着した町会・自治会への活動を広げ、地域への浸透を目指していく。

【田島副委員長】

eスポーツのプロ競技者・有識者と地域コミュニティをつなげるような試みも、可能性があると感じた。また、無償で活動しているとのことだが、継続性こそ重要なので、規模の大きな場での開催は有償で実施するなど、メンバーの努力が報われるような仕組みづくりを考えてもらいたい。

【習志野市 e-sports 協会】

有償での実施は敬遠されやすいことから無償を原則としてきたが、今後検討していきたい。

【松井委員長】

休日のみならず平日も活動しているとのことだが、会員数の確保を課題に挙げているのは、活動範囲を広げたいということか、伺う。

【習志野市 e-sports 協会】

町会の活動は平日が多い一方で、メンバーは皆現役世代なので、人数を増やしてなるべく融通の利く活動をしたいと考えている。なお、一度参加した方が、サポーターとして手伝ってくれた例もあり、そのような形も続けていきたいと思っている。